

## 戦争をなくすために

高三

みなさんは「戦争」について考えたことがありますか。戦争を体験したことはない私たちにとって、戦争は怖い、恐ろしいという印象があると思います。私も以前は戦争と聞いたら怖い印象をもっていました。しかし私は、あることをきっかけに怖い印象だけではない人々の戦争に対する思いに気づき、戦争について深く考えさせられました。

昨年十一月、私は修学旅行で沖縄へ行きました。そこでまず私たちは「平和祈念公園」と「沖縄県平和祈念資料館」を訪れました。「平和祈念公園」内には、沖縄戦で亡くなった全ての方の名前が刻まれた「平和の礎」というものがあり、刻名者数は二十四万人を超えると聞きました。その数を聞いたとき、本当に戦争というものがあつたことを実感すると共に、戦争によって奪われた命がこんなにもあるのかと驚きました。

次に訪れた「沖縄県平和祈念資料館」には、当

時の戦争の写真や遺品、それと沖縄戦体験者の証言文などが展示してありましたが、私たちがこれまで学んできた戦争とは全く違うものでした。人々が折り重なるように倒れている写真、ボロボロになった遺品。正直、私は観ているのがとてもつらかったです。その中でも特に忘れられないのが、燃え広がる町の中、道端に倒れた多くの人々を置き去りにして懸命に走る人たちの写真でした。助けることができずとも死なない命、しかし自分が死んでしまったらと必死に考え抜いた結果なのでしよう。置き去りにされた人々の思いは計り知れません。

また、私たちは「ひめゆりの塔」にも行きました。沖縄の十五歳から十九歳の女学校・女学生徒と教師、計二百四十名は「ひめゆり学徒隊」と呼ばれ、薬や医療設備がない中で負傷した兵士の治療にあたっていました。しかし突如、「ひめゆり学徒隊」の解散命令が下り、避難していた防空壕から追い出されてしまったのです。その結果、地上に出た少女たちの半数は亡くなってしまいました。私は、今の私たちと変わらない年齢の人たちまでもが戦争に巻き込まれて亡くなってい

るのが信じられませんでした。戦争は二度と起こしてはいけないうと改めて強く思いながら、私たちはそこで修学旅行前に折った千羽鶴を捧げました。

私は、今まで戦争を理解しているつもりでした。しかし、実際に沖縄へ行ったことで、悲惨さや命の重みなど自分がその光景を見て初めて戦争を理解できたと思いました。

私は想像しました。人々はどれほど悲しみ苦しみながら亡くなっていったか、どれほど必死に平和を祈ったかを。そして私たちは今、そうした方々のおかげで戦争の苦しみを知ることなく生活していることをしみじみと実感しました。

しかし、世界では未だに紛争が起きている国があります。その原因が何なのか調べてみるところ、主に二つあるようです。一つは宗教や文化的な違いによるもので、もう一つは土地や資源の奪い合いによるものと分かりました。自分と違うから、自分たちだけのモノだからという理由が差別へと繋がり、さらには戦争に発展していつてしまふのではないかと思ひます。

戦争は国家間の問題ですが、これは私たちの生

き方にも当てはまるのではないかと感じました。自分たちと見た目や考え方、文化や価値観が違ふというだけで差別をしてはいないでしょうか。国を創つていくのは私たちです。私たち一人一人が生活の中で、みんながお互いの違いを認め合ひ、差別や争いを許さない世の中にすれば、それが平和な世界に繋がつていくと思ひます。

平和な世の中にするために大切なことは、戦争を記憶から消さないように私たちがもつと戦争について学ぶと同時に、平和の大切さを次の世代に伝えていくことだと思ひます。

二度と戦争を起さないうために、平和な世の中にしていこうという意識を強くもつて私はこれからも生活していきます。